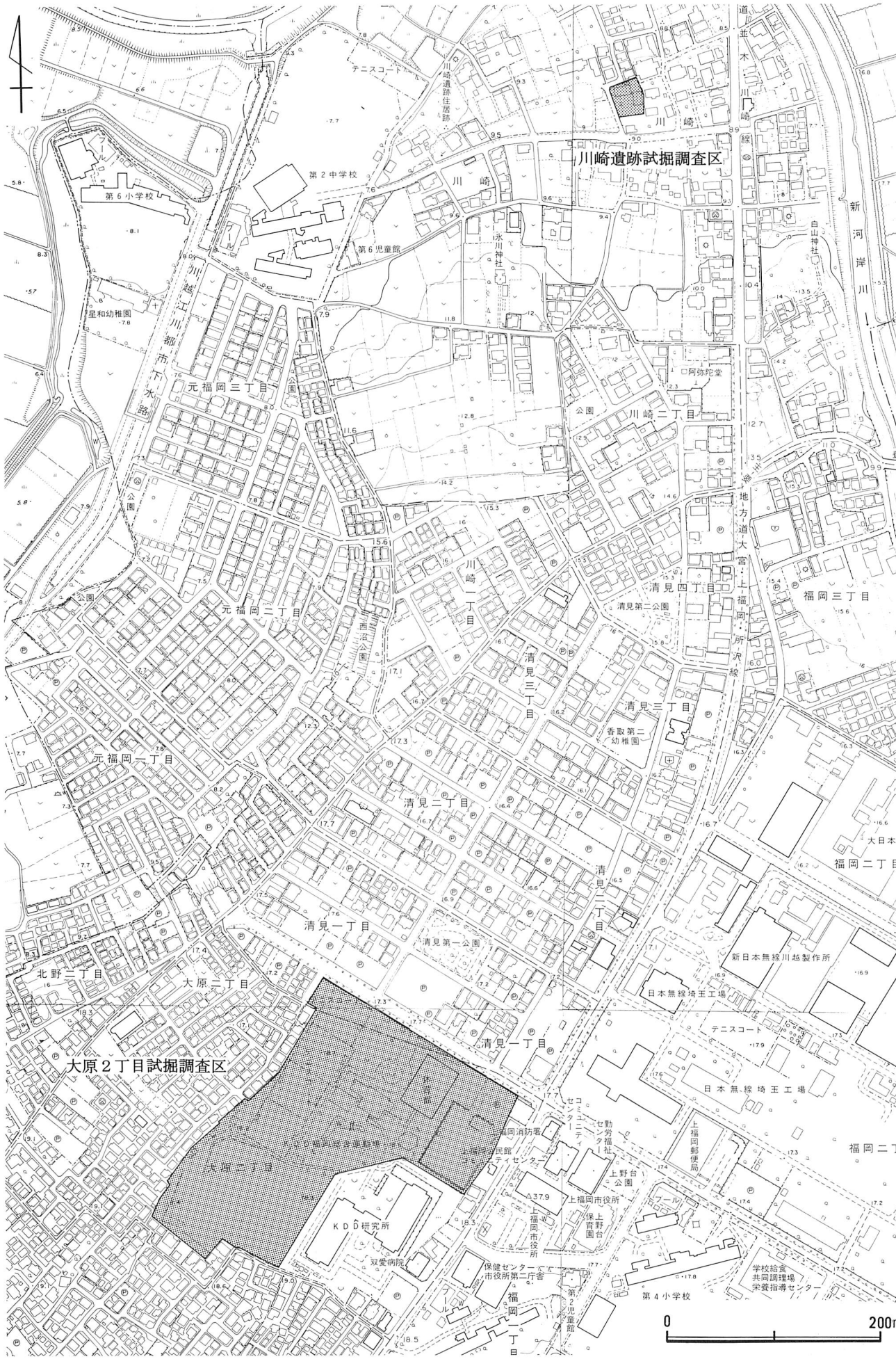
第１図　遺跡位置図（1/13000）



第11図　川崎遺跡・大原２丁目試掘調査区位置図（1/5000）

Ⅺ　大原２丁目の試掘調査

原　　因　　大規模小売店舗建設

所 在 地　　大原２-1735外

調査期間　　６月19日～24日、９月24日～28日

調査担当　　笹森健一、柳沢健司

概　　要　　大原２丁目地区は、北野遺跡が所在するとされている範囲の北側に位置する。北野遺跡は北側に川越市の藤間、寺尾地区を望み、川崎舌状台地の縁辺より西側から流れてくる新河岸川を見晴らす比高差８ｍ程の小高い台地上にあたり、縄文時代中期の土器破片等が僅かながら散布している。昭和40年頃、当該区域に道路を隔てて隣接する清見地区の区画整理に伴い、松尾鉄城氏が、遺構・遺物の確認のため立ち合ったが、何ら確認されなかった。また、郷土資料第27集（1981年刊）にて縄文時代中期の顔面把手が北野遺跡出土として吉川照章氏によって資料紹介されているが、数度の試掘調査にもかかわらず未だに遺構が確認されていない。

今回は、ＫＤＤの運動公園であったところに大規模小売店舗の建設されることに伴い、北野遺跡の範囲の確認を含めた北野、大原地区の台地上の遺跡を確認するため、試掘調査を実施した。

６月19日、まず、40000㎡を超える敷地でも距離的に北野遺跡に近い南西隅部分に、幅２ｍのトレンチ（以下「Ｔ」とする。）を６～８ｍおきに第１Ｔ～第７Ｔを設定し、重機にて表土

大原２丁目試掘調査（６月実施分）
第１トレンチ調査風景（北西より）

大原２丁目試掘調査（６月実施分）
ローム面精査作業風景（南東より）

除去を行い、遺構確認のため人力にてローム面を精査した。いちばん南に位置する第１Ｔの中央部分にてコンクリートの基礎が２基埋まっていた。また第６Ｔの西端と第７Ｔにてコンクリートの基礎が検出された。第３Ｔ～第７ＴまでＴの中央部分は、激しく攪乱されていた。戦前戦中の旧福岡受信所の第三受信室が所在した場所と推察される第１Ｔ、第３Ｔ部分に溝状遺構がみられたが、溝状遺構の流路と建物の建てられた主軸方位と一致しないので溝状遺構は直接旧福岡受信所の建物遺構とは関係ないものと考えられる。24日、トレンチの配置図を作成し、南西隅部分の調査を終了した。

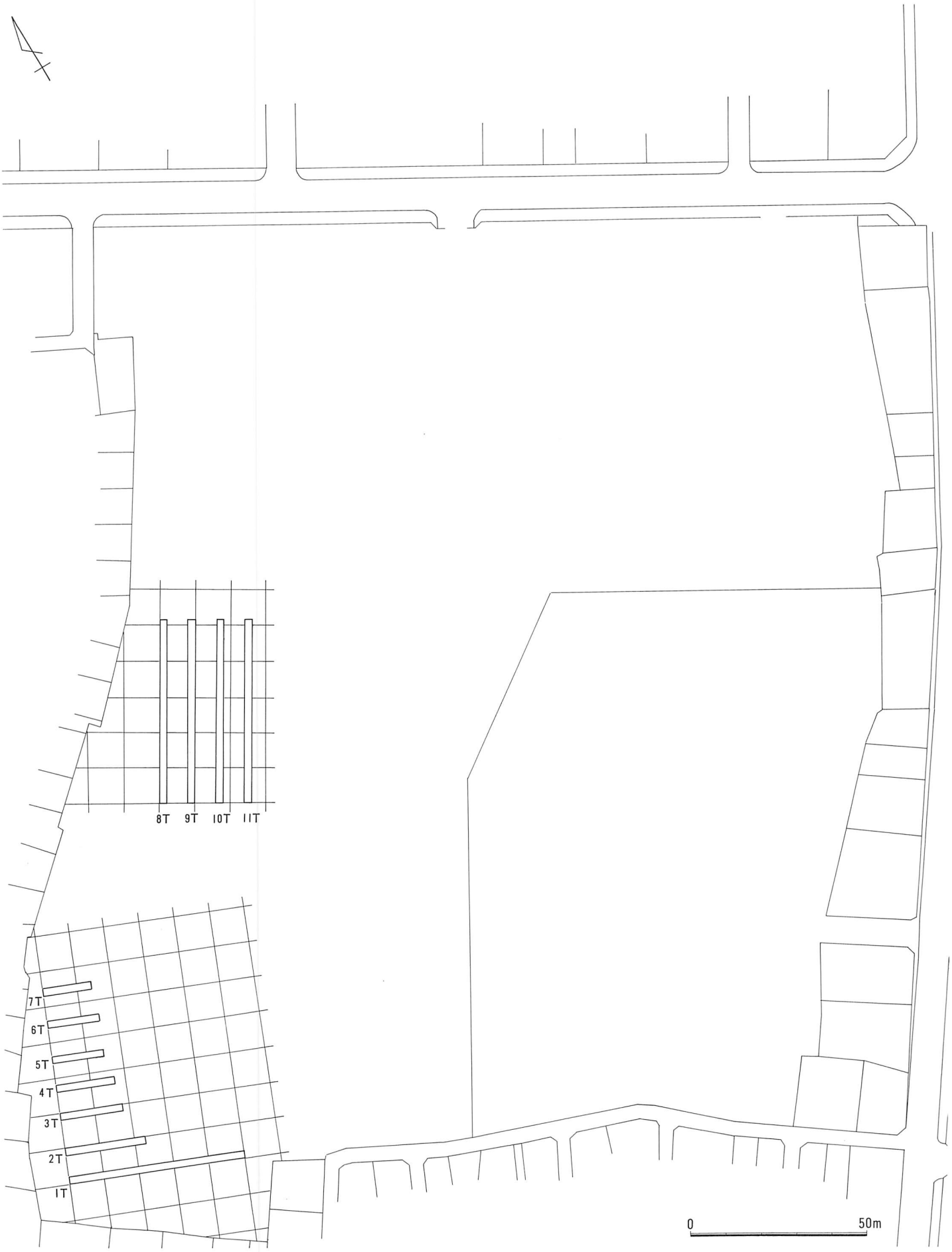
９月24日、長さ52mの２ｍＴを６ｍおきに第８Ｔ～第12Ｔを設定し、重機にて表土除去を行い、遺構確認のため人力にてローム面を精査した。ローム面までは、80cmから１ｍに達し、近世までの遺構・遺物は、一切確認されなかった。その他、旧福岡受信所のものと思われる碍子などが出土し、ローム面にも支持木柱跡と思われる掘削痕がみられた。28日、ローム面の精査を完了し、埋め戻しも当日中に終了した。

出土遺物　なし（ただし、旧福岡受信所の碍子等を採集）

遺　　構　なし

大原２丁目試掘調査（９月実施分）
ローム面精査作業風景（南西より）

大原２丁目試掘調査（９月実施分）
トレンチ表土除去作業風景（南西より）



第13図　大原２丁目試掘調査区全測図（1/1400）